

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成28年8月4日 (2016.8.4)

【公表番号】特表2015-511246(P2015-511246A)

【公表日】平成27年4月16日 (2015.4.16)

【年通号数】公開・登録公報2015-025

【出願番号】特願2014-558850(P2014-558850)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/41 (2006.01)

A 6 1 Q 5/10 (2006.01)

A 6 1 K 8/34 (2006.01)

A 6 1 K 8/22 (2006.01)

A 6 1 K 8/19 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/41

A 6 1 Q 5/10

A 6 1 K 8/34

A 6 1 K 8/22

A 6 1 K 8/19

【誤訳訂正書】

【提出日】平成28年4月1日 (2016.4.1)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 5】

自然な毛髪は、典型的に、根元から先端にかけて移動するとき、濃から淡へとかわる。本発明者らは、驚くべきことに、本発明に従って毛髪を染色するための方法を実行することによって見出したのだが、根元から先端へのより自然な変移を保つことが可能である。加えて、毛髪は、一律かつ塊 (block) の色になっておらず、長さ部分に希釈の染色剤が適用されるにつれて、毛髪における色調のより一層の自然な変化を示す。理論によって拘束されない一方で、顕色剤成分を染料成分と混合して、非希釈の組成物を得、非希釈の組成物の第 1 の部分を直接根元が新しい毛髪に適用することは、以前に非染色された毛髪を所望の段階まで明るくしかつ染色すること両方へ効果的な組成物送達すると考えられる。しかしながら、この非希釈の組成物の第 2 の部分を保持し、それを希釈剤成分とそこへ混合することは、非希釈の組成物の明るくする及び染色する全体的な能力を減少する、希釈の組成物を結果的に提供し、非希釈の組成物は、次いで残りの事前に染色された毛髪の長さに適用され、それは、少なめに明るくすること及び少なめの染料付着を必要とし、根元に適用される非希釈の組成物の第 1 の部分の適用からの結果に類似する染色結果を送達する。理論によって拘束されない一方で、希釈剤成分の非希釈の組成物の第 2 の部分との使用は、染料形成過程が完全にそれによってまだ染料種の浸透を毛幹内へ可能し、永続的な毛髪染色を提供する前に存在する場合、染料前駆体、過酸化水素及びアルカリ化剤等の酸化剤等活性種の濃縮を減少すると考えられる。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0040】

キレート剤

本発明の非希釈の及び希釈された毛髪染色組成物は、キレート剤（又は「キレート化剤」若しくは「金属イオン封鎖剤」若しくは「隔離剤」）又はこれらの塩を含み得る。消費者によって使用される水道水における銅、鉄、及びカルシウム等の金属酸化還元存在は、5～100ppmの低い濃度においてのみ存在するが、カルシウムにおいては、4000～10000ppmであり、酸化毛髪染料の色彩化学に影響し得る。キレート剤の存在は、この影響を限定し得る。用語「これらの塩」は、キレート剤としての同様の機能的構造を含む全ての塩を意味し、それらの用語は、アルカリ金属、アルカリ土類、アンモニウム、置換されたアンモニウム塩（例えば、モノエタノールアンモニウム、ジエタノールアンモニウム、トリエタノールアンモニウム）、具体的に全てのナトリウム塩、カリウム塩、又はアンモニウム塩を指し、かつ含む。非希釈の及び／又は希釈された毛髪染色組成物は、0.01重量%～5重量%、又は0.25重量%～3重量%、又は0.5重量%～1重量%のキレート剤、これらの塩、これらの誘導体、又はこれらの混合物を含み得る。キレート剤は、顕色剤成分、染料成分、希釈剤成分、又はこれらの任意の組み合わせにおいて存在し得る。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0069

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0069】

コンディショニング剤

非希釈の及び希釈された毛髪染色組成物は、コンディショニング剤を含み得る。コンディショニング剤は、顕色剤成分、染料成分、希釈剤成分、別個のコンディショナー成分、又はこれらの任意の組み合わせにおいて存在し得る。本明細書に用いるのに好適なコンディショニング剤は、シリコーン物質、アミノシリコーン、C6～C30脂肪族アルコール、ポリマー樹脂、ポリオールカルボン酸エステル、カチオン性ポリマー、カチオン性界面活性剤、不溶性油、及び物質に由来する油、及びこれらの混合物から選択される。追加の物質としては、鉱油及びその他の油、例えばグリセリン及びソルビトールが挙げられる。特に有用なコンディショニング物質は、カチオン性ポリマーである。カチオン性ポリマー型のコンディショナーは、本明細書に以後記載される、主要ポリマー鎖の部分を形成し得るか、又は主要ポリマー鎖に直接付着される側鎖置換基によって生じられ得るかのいずれかの、一級、二級、三級及び四級アミン基から選択される少なくとも1つのアミン基のユニットを含むこれらから選択されることができる。コンディショニング剤は、概して、0.05重量%～20重量%、好ましくは0.1重量%～15重量%、より好ましくは0.2重量%～10重量%、更により好ましくは0.2重量%～2重量%の非希釈の又は希釈された毛髪染色組成物の濃度で使用される。コンディショニング剤は、別個の前又は後一処置組成物において含まれ得る。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0090

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0090】

界面活性剤

本発明に従う非希釈の及び希釈された毛髪染色組成物は、1つ以上の界面活性剤を含み得る。本明細書に用いるのに好適な界面活性剤は、概して、8～30の炭素原子の親油性の鎖の長さを有し、アニオン性、非イオン性、両性及びカチオン性界面活性剤、及びこれ

らの混合物から選択されることができる。界面活性剤の総濃度は、2重量%～30重量%、又は8重量%～25重量%、又は10重量%～20重量%の非希釈の又は希釈された毛髪染色組成物であり得る。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0092

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0092】

希釈剤成分は、10重量%未満、好ましくは8重量%未満、より好ましくは6重量%未満の界面活性剤を含み、更により好ましくは実質的に界面活性剤を含まない。本発明者らは、驚くべきことに、高すぎる濃度の界面活性剤を含む希釈剤成分が非希釈の毛髪染色組成物の第2の部分に添加され、希釈された毛髪染色組成物を得る場合、粘度の相当な下降が観察されることがあり、希釈された毛髪染色組成物の粘度が毛髪の長さ部分及び先端に、毛髪から組成物がしたたり落ちることなく適用するには低すぎて適用できないことを見出した。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0137

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0137】

【表2】

	<u>優れている</u>	<u>同じ</u>	<u>劣る</u>
全体的な毛髪の色*	81%又は21人中17人	14%又は21人中3人	5%又は21人中1人
色が一律かつ塊になっていないか	62%又は21人中13人	38%又は21人中8人	0%
完全な深み及び色調の色を提供する	76%又は21人中16人	19%又は21人中4人	5%又は21人中1人
高級感がある色調の混成の色を提供する	67%又は21人中14人	28%又は21人中6人	5%又は21人中1人

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0138

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0138】

【表 3】

評価結果	定数(21)
毛髪染色&コンディショニング属性(1.0=良い、0=同じ)	
OA毛髪染色	0.8
一律かつ塊になりすぎない	0.6
完全な深み及び色調	0.7
高級感がある色調の混成	0.6

【誤訳訂正 8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0152

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0152】

結果：

上の表に見られるように、希釈剤成分がシャンプー希釈剤成分であるとき（それゆえ、高い濃度の界面活性剤を含む）、実質的な粘度の下降を観察した。例えば、試料D2では、 10 s^{-1} で 14.09 Pa の剪断応力を観察し、一方で試料A0では、 10 s^{-1} で 167.57 Pa の剪断応力を観察した。

【誤訳訂正 9】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

毛髪を染色するための方法であって、

i) 顕色剤成分を染料成分と混合し、非希釈の毛髪染色組成物を得る工程であって、前記顕色剤成分が酸化剤を含み、前記染料成分が少なくとも1つの酸化染料前駆体及び／又はアルカリ化剤を含む、工程と、

ii) 工程 i) で得られた前記非希釈の毛髪染色組成物の第1の部分を前記毛髪に適用し、かつ工程 i) で得られた前記非希釈の毛髪染色組成物の第2の部分を保持する工程と、

iii) 前記第2の部分を、水を含む希釈剤成分と、4:1～1:2の混合比で混合し、希釈された毛髪染色組成物を得る工程と、

iv) 前記希釈された毛髪染色組成物を前記毛髪に適用する工程と、

v) 前記毛髪をすすぐ工程と、

を含み、前記希釈剤成分は10重量%未満の界面活性剤を含む、方法。

【請求項 2】

工程 ii) において、工程 i) で得られた前記非希釈の毛髪染色組成物の第1の部分を毛根に適用する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

工程 iv) において、希釈された毛髪染色組成物を前記毛髪の長さ部分及び先端に適用する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記希釈剤成分が、さらに少なくとも 1 つの活性成分を含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

工程 i i) において、工程 i) で得られた前記非希釈の毛髪染色組成物の 90～10 重量%が、第 1 の部分として前記毛髪に適用される、請求項 1～4 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 6】

工程 i i) において、工程 i) で得られた前記非希釈の毛髪染色組成物の 80～50 重量%が、第 1 の部分として前記毛髪に適用される、請求項 1～4 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 7】

工程 i i) において、工程 i) で得られた前記非希釈の毛髪染色組成物の 75～55 重量%が、第 1 の部分として前記毛髪に適用される、請求項 1～4 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 8】

工程 i i) において、工程 i) で得られた前記非希釈の毛髪染色組成物が、第 1 の部分として毛根に適用される、請求項 5～7 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 9】

— 前記顕色剤成分が、1～20 重量%の前記酸化剤を含み、
— 前記染料成分が、0.01 重量%～10 重量%の前記酸化染料前駆体（複数可）及び／又は 0.1 重量%～10 重量%の前記アルカリ化剤を含み、
— 前記希釈剤成分が、最大 99 重量%の水と、界面活性剤、コンディショニング剤、ポリマー、及びそれらの混合物から選択される最大 25 重量%の少なくとも 1 つの活性成分と、を含む、請求項 1～8 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 10】

前記希釈剤成分が、8 重量%未満の界面活性剤を含む、請求項 1～9 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 11】

前記希釈剤成分が、6 重量%未満の界面活性剤を含む、請求項 1～9 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 12】

前記希釈剤成分が、界面活性剤を含まない、請求項 1～9 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 13】

前記非希釈の毛髪染色組成物及び前記希釈された毛髪染色組成物の各々が、粘度試験方法に従って測定される際、 10 s^{-1} で 20～200 Pa の剪断応力を誘導する粘度を有する、請求項 1～12 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 14】

前記非希釈の毛髪染色組成物が、前記粘度試験方法に従って測定される際、 10 s^{-1} で 60～200 Pa の剪断応力を誘導する粘度を有し、前記希釈された毛髪染色組成物が、前記粘度試験方法に従って測定される際、 10 s^{-1} で 20～180 Pa の剪断応力を誘導する粘度を有する、請求項 1～13 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 15】

前記非希釈の毛髪染色組成物及び前記希釈された毛髪染色組成物が、ブラシ及びボウルの塗布器、あるいはノズル又は別個の塗布器デバイスが付属される容器で、前記毛髪に適用される、請求項 1～14 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 16】

前記顕色剤成分が、アクリレートコポリマー、疎水変性アクリレートコポリマー、及びこれらの混合物から選択される増粘剤を含む、請求項 1～15 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 17】

工程 i i) と i i i) との間で実施される時間 T_1 の間待つ工程、及び／又は工程 i v) と v) との間で実施される時間 T_2 の間待つ工程を含み、

【数 1】

$$a. \quad 0.15 < \left(\frac{T_2}{T_1 + T_2} \right) \times \left(1 - \frac{b}{a+b} \right) < 0.30 \text{ 又は}$$

$$b. \quad 0.55 < \left(\frac{T_2}{T_1 + T_2} \right) \times \left(1 - \frac{b}{a+b} \right) < 0.75$$

であり、

式中、a 及び b が、それぞれ、工程 i i i) で一緒に混合される、前記非希釈の毛髪染色組成物の前記第 2 の部分の重量及び前記希釈剤成分の重量である、請求項 1 ～ 16 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 18】

工程 i i) と i i i) との間で実施される、10 分～40 分の時間待つ工程と、工程 i v) と v) との間で実施される、5 分～20 分の時間待つ工程を含む、請求項 1 ～ 17 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 19】

工程 i i) と i i i) との間で実施される、待つ工程の時間が 15 分～30 分である、請求項 18 に記載の方法。

【請求項 20】

工程 i i) と i i i) との間で実施される、待つ工程の時間が 20 分である、請求項 18 に記載の方法。

【請求項 21】

工程 i v) と v) との間で実施される、待つ工程の時間が 10 分である、請求項 18 ～20 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 22】

工程 i i i) が、工程 i i) の直後に実施され、前記方法が、工程 i v) と v) との間で実施される、5 ～40 分の時間待つ工程を更に含む、請求項 1 ～ 17 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 23】

工程 i v) と v) との間で実施される、待つ工程の時間が 20 ～40 分である、請求項 22 に記載の方法。

【請求項 24】

工程 i v) と v) との間で実施される、待つ工程の時間が 30 分である、請求項 22 に記載の方法。

【請求項 25】

酸化剤を含む顕色剤成分と、少なくとも 1 つの酸化染料前駆体及び／又はアルカリ化剤を含む染料成分と、水を含む希釈剤成分とを含む、請求項 1 ～24 のいずれか一項に記載の毛髪を染色するための方法を実施するための毛髪染色キット。

【請求項 26】

前記希釈剤成分が、更に活性成分を含む、請求項 25 に記載の毛髪染色キット。

【請求項 27】

前記キットが、ブラシ及びボウルの塗布器を更に含む、請求項 25 又は 26 に記載の毛髪染色キット。

【請求項 28】

前記キットが、染色後に前記毛髪をすすぐ際に使用するためのシャンプー及び／又はコンディショナー成分を更に含む、請求項 25 ～27 のいずれか一項に記載の毛髪染色キット。

【請求項 29】

前記キットが、請求項 1 ～ 24 のいずれか一項で画定される方法に従って、ユーザにその毛髪を染色するように指示することを含む取扱い説明書の一式を、更に含む、請求項 25 ～ 28 のいずれか一項に記載の毛髪染色キット。